

1954 年前後 劇団からっかぜができたころ

浜松演劇愛好会(劇団からっかぜの母体)について」

劇団民藝 制作部様(2017年5月18日)からメールで教えてもらう。

○第一回観賞会 1953年浜松市公会堂 劇団民藝『民衆の敵』作=ヘンリック・イブセン 訳・編=菅原卓 演出=岡倉士朗 (浜松市史四から確認できる。)

○1954年浜松市公会堂 劇団民藝『神は知っていた』作=アルマン・サラクルー 訳=鈴木力衛 演出=岡倉士朗』

劇団からっかぜの前身、浜松演劇愛好会(浜松演劇鑑賞会??) 1953年12月6日に結成される。

文芸大 2005年 文化・芸術インタビュー(須田悦生) から

この1953年の浜松演劇鑑賞会=浜松演劇愛好会 浜松演劇事務局長 新井知加子

浜松演劇鑑賞会(1953年)→浜松市民劇場→浜松市民劇場+浜松労演=浜松演劇観賞協議会
→浜松演劇鑑賞会

創立期のメンバー 佐倉忠夫さんの記憶

浜松市民劇場+浜松労演=浜松演劇観賞協議会 1962年9月設立→現在の浜松演劇鑑賞会

浜松演劇観賞協議会 事務局長 佐倉忠夫

1953年 ぶどうの会『夕鶴』浜松演劇愛好会3本目の招聘公演

浜松市史四 第三章 発展への基礎づくり 第九節 文学・文化

第五項 演劇と映画・ラジオ

【浜松演劇愛好会】演劇鑑賞組織

演劇鑑賞の組織作りの動きが見られるのは戦後としてはやや遅く、河合茂や菅沼五十一らを中心に浜松演劇愛好会が誕生するのは昭和二十八年九月のことである。機関紙『浜松演劇愛好会ニュース』(編集代表・菅沼五十一) No.1 (昭和二十九年三月二十九日発行)で、河合は第一回観賞会(「民衆の敵」…民芸)の成功を踏まえて「この演劇不毛の地と伝えられたらしい浜松にも、実際は新劇愛好者が、結構沢山いると分つたのは大きな収穫である」と述べ、当面の課題として、代表的な劇団をさらに次々に招くこと、自立劇団結成の二つを挙げている。この課題は、前者については後年の浜松演劇観賞協議会の結成(昭和三十七年)などにより実現をみているし、後者についても浜松放送劇団や劇団からっかぜなどの劇団の結成と長期にわたる充実した活動によって実現されていると言ってよさそうである。筆者の河合と、菅沼は共に浜松ユネスコ協会の役員であった。

[演劇鑑賞組織]

浜松市立中央図書館／浜松市文化遺産デジタルアーカイブ 浜松市史 四

【浜松演劇愛好会】演劇鑑賞の組織作りの動きが見られるのは戦後としてはやや遅く、河合茂や菅沼五十一らを中心に浜松演劇愛...

第二章 復興への努力と民主主義 第九節 文学・文化 第七項 映画・演劇・ラジオ

[アマチュア劇団]

浜松市立中央図書館／浜松市文化遺産デジタルアーカイブ 浜松市史 四

フレット(平成十年)掲載の上演記録によれば、最初の公演は昭和二十九年の「龍のおと

しご」である。当時、浜松演劇愛好会という組織があり、時折、劇団を招いて演劇鑑賞をしていた。その会の一部の若い人たちが自立して、演劇を自...

第1回浜松芸術祭が浜松ユネスコ協会主催で1954年11月27日(土) 浜松市公会堂
浜松演劇愛好会「龍のおとしご」作：真船豊 演出:村越一哲 上演

浜松演劇愛好会が1955年に劇団からっかぜになる。劇団員連名33人 代表：河合茂??

第1回浜松市芸術祭 1955年12月04日 浜松市公会堂
主催:松市教育委員会と浜松社会人演劇連盟と浜松市連合青年協議会
劇団からっかぜ「村の保守党」作:伊藤貞助 演出:吉田 勝海・

第2回浜松市芸術祭 1956年12月02日 誠心高校ホール
主催:松市教育委員会と浜松社会人演劇連盟と浜松市連合青年協議会
長上青年会「長女」 吉野青年会「国境の夜」 劇研ひくまの「笛」
西部部会広沢青年会「思い出を売る男」
劇団からっかぜ「帰郷」作:津留達二 演出:吉田 勝海
大和染工演劇部「終列車の男」

第8回浜松市芸術祭 1962年11月01日 浜松市民会館ホール
浜松放送劇団「鋏(はさみ)」 浜松放送劇団が浜松市芸術祭に初参加

劇団からっかぜ 創立メンバー 村越一哲 ステージネーム 村越一彦